

平成19年度 徳島県田園環境検討委員会（第1回）会議録

I 日 時：委員会 平成19年11月14日（水）13時30分から16時15分

II 場 所：阿南市那賀川町
徳島県庁10階特別大会議室

III 出席者：【委員】角野康郎委員長、上月康則副委員長、伊沢幸雄、茨木靖、
植田美恵子、大栗邦子、桑田トシエ、吉村昇
（ア行順敬称略、10名中8名出席）
【県】農林水産部参事、農山村整備課長、農地整備課長ほか

IV 委員会次第：1 開 会
2 開会のあいさつ
3 議事（1）現地視察：経営体育成基盤整備事業 平島上地区
（2）農業農村整備事業新規予定地区の
「環境との調和への配慮」について
4 閉会のあいさつ
5 閉 会

《配布資料》

資料1 会議次第
資料2 配席図
資料3 環境配慮調書

V 会議録：1 開 会
2 開会のあいさつ：農林水産部参事からあいさつ
3 議事（1）現地視察：経営体育成基盤整備事業 平島上地区
議事（2）平成20年度農業農村整備事業新規予定地区の
「環境との調和への配慮」について、県担当者より説明。

○主な質疑・意見等概要（個別地区）

1. 国営附帯県営農地防災事業 唐園地区
2. 農業用河川工作物応急対策 長田堰地区
3. 農免農道事業 池田地区

【委員】

唐園地区で、パイプラインにして水を排水路に流すと、コストはかかるのか？

【県】

ポンプで水を送っているので、電気代等のコストがかかる。

【委員】

昨年の段関地区では、用排水路が、用水がパイプラインで送るようになり、排水路の水

質が非常に悪くなった。下水道や合併浄化槽が進んでいないのが問題であるが、

【委員】

環境に配慮するということをPRする必要がある。

川内地区はパイプライン化しているので、用排水路が完全な排水路になっている。最初は水を用水路に流していたが、農家に負担がかかるということで、だんだん無くなってきている。それも含めて、環境が大事だというPRをすれば、付近住民も環境を大事にしようとする意識も高まり、また、負担はあっても最低限の水は流す必要はあるという意識も上がってくるのではないかと思う。

【委員】

用排水路の問題は、この地区に限らず共通する問題であるので、環境配慮するのであれば今後考えていかなければならない問題だと思う。

【委員】

パイプラインにすると、必ず水質は悪くなるのか？

【県】

開水路を流れていた水が、パイプラインで農地へ直接行くので、現状よりは悪くなる。環境に配慮した最小限の水は流すように、関係者に協力を求めたい。

○主な質疑応答（委員会全般について）

【委員】

今までに審議した事業のリストと、計画、設計、施工、現在の状態、およびコメントをまとめたものがあれば分かりやすいので、作成してほしい。

【県】

昨年の18年度第2回の委員会で、平成14年度から17年度末までの環境配慮の実績の調書を作成して報告した。18年から19年にかけても引き続き進めているので、まとめて第2回目の委員会ので報告する。

【委員】

この問題は大事であると思う。

事業が上手くいった、あるいは失敗した場合も含めて結果を、フィードバックしていかないと教訓にならない。目を向けるという姿勢は大事であり、その結果が（データが）蓄積していくのは県としても財産になると思う。

【委員】

現地視察を中間の工事の施工中にできるように、企画してほしい。

【県】

検討してみます。

4 閉会のあいさつ：農地整備課長からあいさつ

5 閉会